

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岩谷産業株式会社堺独身寮計画	階数	地上7F
建設地	大阪府堺市堺区神明町西1丁12番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	80人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	- 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月 予定	評価の実施日	2013年3月6日
敷地面積	977 m ²	作成者	東井嘉信
建築面積	636 m ²	確認日	
延床面積	3,706 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 99%

③上記+②以外の 97%

④上記+ 97%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
垂直・水平に吹抜け空間を設けることで、建物内に良好な環境を構築するとともに、沿道に対し緑のみえる安らぎを提案している。また、アイレベルには植栽を積極的に整備し、良好な景観形成に寄与している。設備計画においては、省資源化を各所に図り、環境負荷の低い計画としている。	建設現場では、職員教育による環境意識の共有、廃棄物の発生抑制の工夫、再資源化のための徹底分別や、再資源化ルートの確立を推進し、最終処分量をできるだけゼロに近づけるゼロエミッション活動に努めます。	
Q1 室内環境 建物中央に設けた吹抜けにより、施設内に自然の風、光を取り込む計画としている。また、F☆☆☆☆建材の全面的な使用により、生活空間での化学物質の発生を極力排除するよう配慮した。	Q2 サービス性能 充実した維持管理機能の確保により、衛生的な環境維持の負担軽減に配慮した。また、寮室エリアは配管スペースの分散配置により、設備更新が容易な計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 隣接小学校や歩道に向け緑地を整備するとともに、両道路側に向けて大開口の屋上テラスを設けることで、壁面による圧迫感を軽減し、良好な景観に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー 高効率照明器具の採用により、省エネルギーに配慮している。また、太陽光発電を行い、自然エネルギーにより電力を補う計画としている。	LR2 資源・マテリアル 外装材、内装材ともにリサイクル資材を積極的に使用し、環境負荷低減を図っている。また、節水型器具やLED照明の採用など、エネルギー資源の負荷低減にも配慮した計画としている。	LR3 敷地外環境 利用者用駐車・駐輪場とサービス車両用駐車スペースの導入路を別々に配置することで、スムーズな車両の出入りに配慮し、周辺道路への影響を軽減するとともに、利用者の利便性に配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	岩谷産業株式会社堺独身寮計画	BEE	BEEランク
	建設地	堺市堺区神明町1丁12番	1	B+
	主用途/延床面積	集合住宅 / 3,705.01 m ²		

2. 重点項目への取組み

重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	3	
省エネ対策	3	
みどり・ヒートアイランド対策	3	
安全快適な暮らし	4	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

CO ₂ 削減	評価項目		スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		3.1	3
省エネ対策	評価項目		スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.3」のスコアによる評価値	建物全体	2.0	3
		住居・宿泊部分	2.0	
建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		3.0	
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		3.0	
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		3.4	
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		対象外	
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.4	
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目		スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		3.0	
安全快適な暮らし	評価項目		スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		4.0	4
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		3.0	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		3.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		5.0	

4. その他

技術の名称	考慮事項

特に配慮した事項

垂直・水平に吹抜け空間を設けることで、建物内に良好な環境を構築するとともに、沿道に対し緑のみえる安らぎを提案している。また、アイレベルには植栽を積極的に整備し、良好な景観形成に寄与している。